



2023年度  
決算説明会資料

2024年5月30日  
株式会社北川鉄工所  
証券コード：6317（東証スタンダード）

- 1. 会社概要**
- 2. 2023年度 決算報告**
- 3. 2024年度 事業計画**
- 4. 2023年度 トピックス**

- 1. 会社概要**
2. 2023年度 決算報告
3. 2024年度 事業計画
4. 2023年度 トピックス

会社名	株式会社北川鉄工所
本社所在地	広島県府中市元町
代表者	代表取締役会長 北川 祐治
創業	1918年3月
従業員数	グループ合計：2,535名 内単独：1,427名 (2024年3月末)
事業規模	連結売上高：615億円 (2023年度) 連結営業利益：16億円 (2023年度)
事業内容	工作機器 産業機械 金属素形材
主要関係会社	KITAGAWA MEXICO,S.A. DE C.V. 北川グレステック株式会社

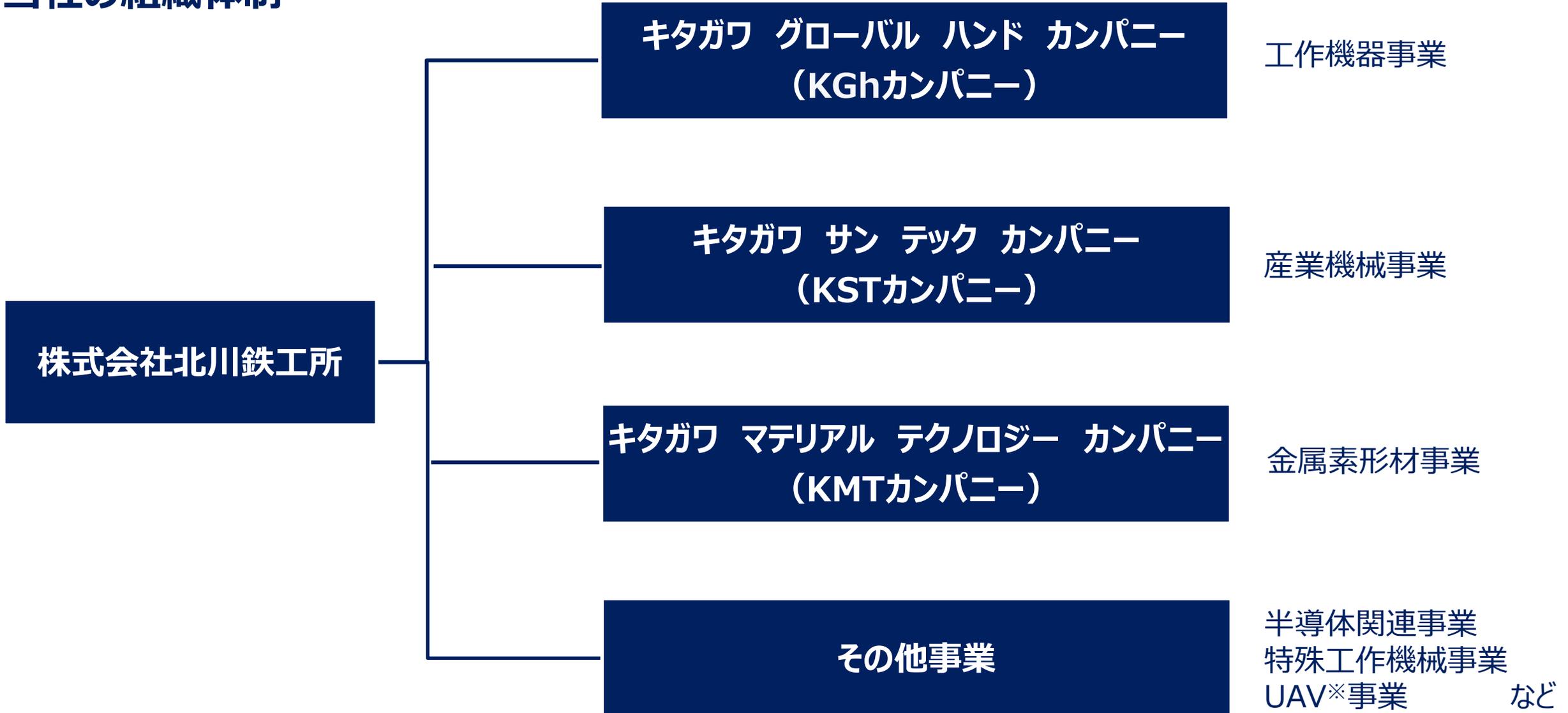
## 経営ビジョン

株式会社 北川鉄工所は  
ものづくりという業にあって

**お客様の喜びを我々の喜びとし、**  
**素直な心を尊び、勇気ある行動を敬い、**  
**自己実現の場として自律した活力ある**  
**リーダーを育成し、**  
**技術を誇り、未知なる世界に挑戦する**

Quality Businessを实践する集団である

## 当社の組織体制



※無人航空機 (Unmanned Aerial Vehicle)

# KGhカンパニー

Kitagawa Global hand Company

## 事業

- 工作機器（ワークホールディング）
- 旋盤用チャック
- NC円テーブル
- ロボットハンド

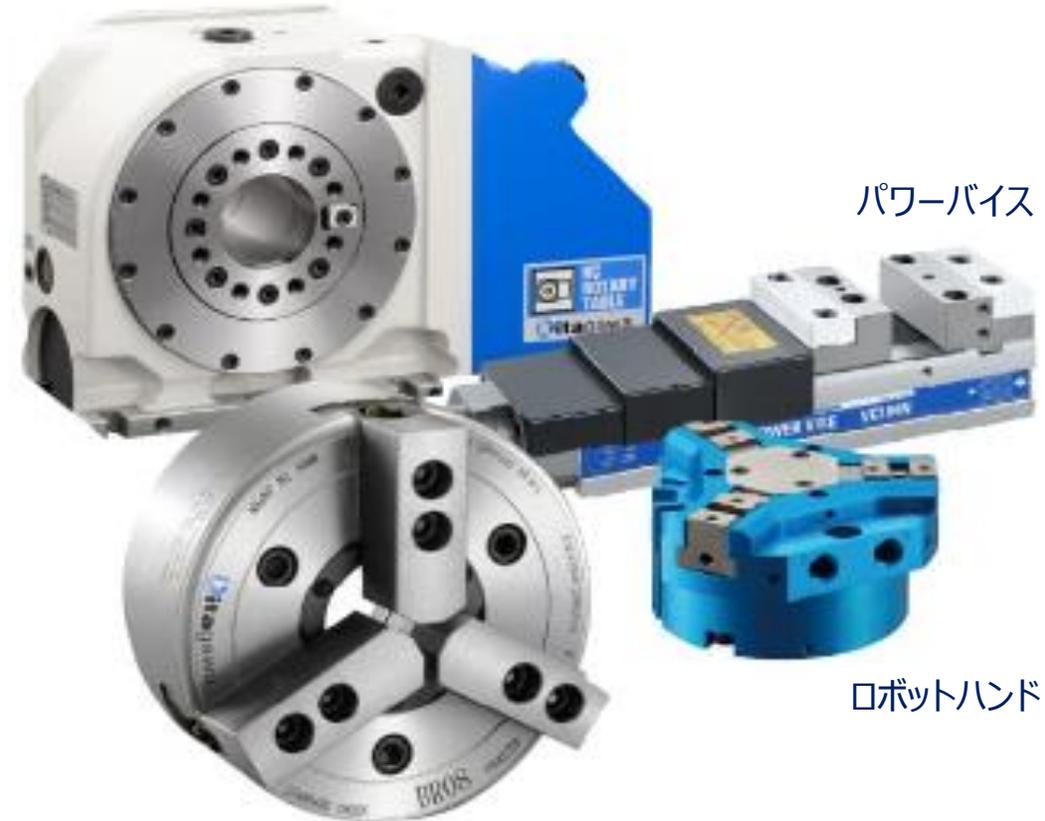
## 規模

- 売上高構成比率 15%
- 2023年度売上 92億円

## 顧客

- 海外売上比率 約41%
- **パワーチャック分野では国内シェアトップクラス**
- 国内主要工作機械にて標準品採用

NC円テーブル



パワーバイス

ロボットハンド

旋盤用チャック

# KSTカンパニー

Kitagawa Sun Tech Company

## 事業

- コンクリートプラント
- 建設用クレーン
- 立体駐車場
- 環境機械

## 規模

- 売上高構成比率 32%
- 2023年度売上 197億円

## 顧客

- 国内顧客が中心
- 北海道～沖縄にかけ営業拠点構築
- **小・中型建設用クレーンでは国内シェアトップクラス**



建設用クレーン「ビルマン」



コンクリートプラント



立体駐車場

# KMTカンパニー

Kitagawa Material Technology Company

## 事業

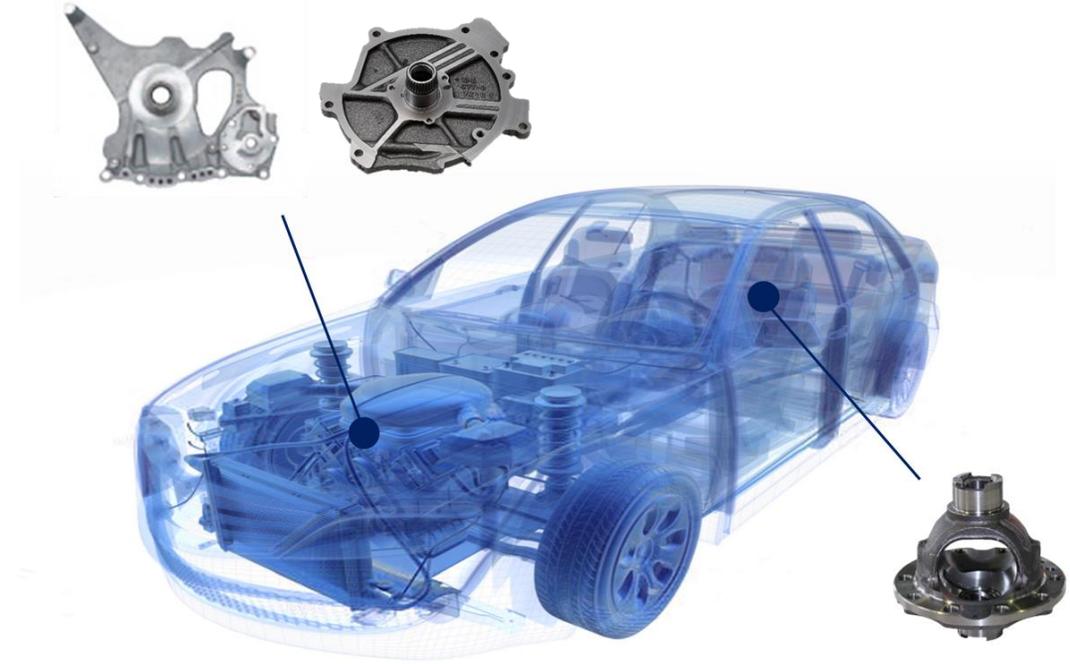
- 鉄系鋳物の製造
- 鋳物製品の機械加工

## 規模

- 売上高構成比率 48%
- 2023年度売上 298億円

## 顧客

- 自動車部品 (デフケース・ミッション部品) 59%
- 建機・農機部品 (足回り部品・エンジン部品) 41%



自動車部品



建機・農機部品

1. 会社概要
- 2. 2023年度 決算報告**
3. 2024年度 事業計画
4. 2023年度 トピックス

- **売上高**は金属素形材事業における**自動車部品の生産量回復**、並びに2023年9月末にケメット・ジャパン株式会社・システム精工株式会社（現：北川グレステック株式会社）を**連結子会社化**したことにより当社全体の売上高は前期比**18.6億円増の615億円**
- **営業利益**は金属素形材事業において**原材料・エネルギー価格高騰分の価格転嫁**が進んだこと及び**自動車部品の生産量回復**、並びに北川グレステック株式会社の**連結子会社化**により前期比**14.8億円増の16.8億円**
- **親会社株主に帰属する当期純利益**は**経常利益増益13.7億円**と**投資有価証券売却益5.8億円**などにより前期比**16.8億円増の12.6億円**

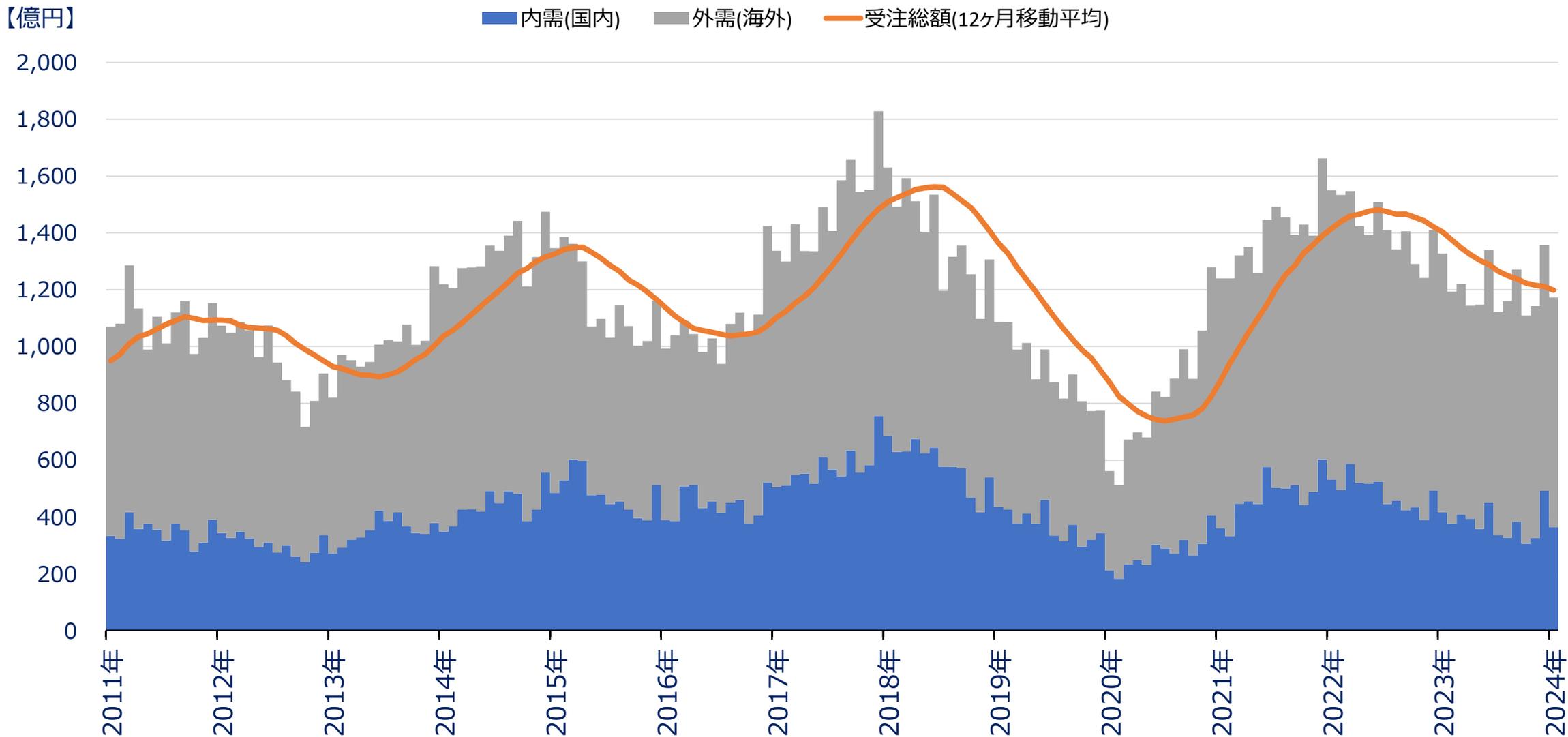
単位：百万円

	2022年度	2023年度	前期比	増減率
売上高	59,700	61,567	1,867	3.1%
営業利益	194	1,680	1,486	762.0%
営業利益率（%）	0.3	2.7	2.4pt	—
経常利益	1,034	2,409	1,375	133.0%
税金等調整前 当期純利益	252	2,444	2,192	869.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△418	1,267	1,685	—

単位：百万円

セグメント		2022年度	2023年度	前期比	増減率
KGhカンパニー (工作機器事業)	売上高	9,811	<b>9,233</b>	△578	△5.9%
	営業利益	1,160	<b>761</b>	△399	△34.4%
KSTカンパニー (産業機械事業)	売上高	23,258	<b>19,738</b>	△3,520	△15.1%
	営業利益	1,539	<b>1,141</b>	△398	△25.9%
KMTカンパニー (金属素形材事業)	売上高	25,936	<b>29,804</b>	3,868	14.9%
	営業利益	△1,873	<b>102</b>	1,975	—
その他事業	売上高	694	<b>2,791</b>	2,097	302.1%
	営業利益	△108	<b>378</b>	486	—
共通費用	営業利益	△523	<b>△702</b>	△179	—
合計	売上高	59,700	<b>61,567</b>	1,867	3.1%
	営業利益	194	<b>1,680</b>	1,486	762.0%

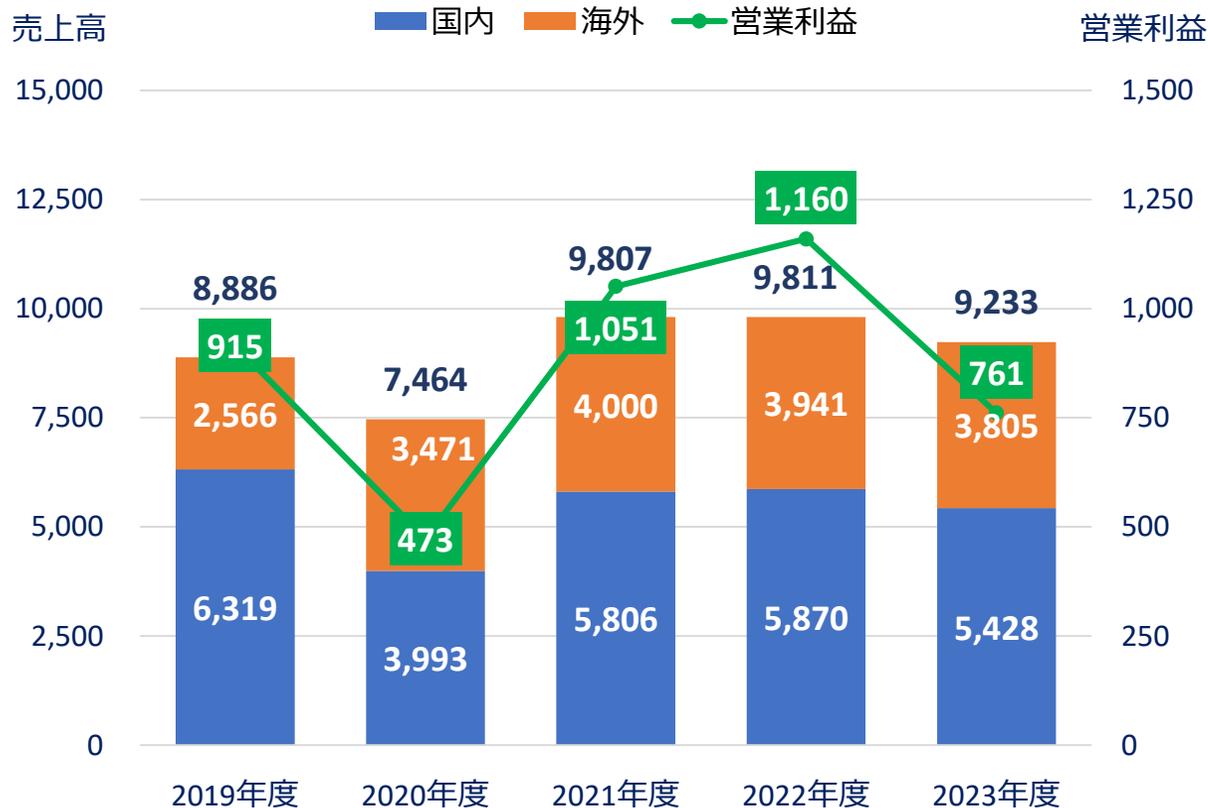
## 工作機械受注推移



資料:日本工作機械工業会 工作機械受注統計より引用

単位：百万円

	2022年度	2023年度	前期比（率）
売上高	9,811	<b>9,233</b>	△578 (△5.9%)
営業利益	1,160	<b>761</b>	△399 (△34.4%)
利益率（%）	11.8	<b>8.2</b>	— (△3.6pt)



## 国内市場

### 減収（売上高前期比△7.5%）

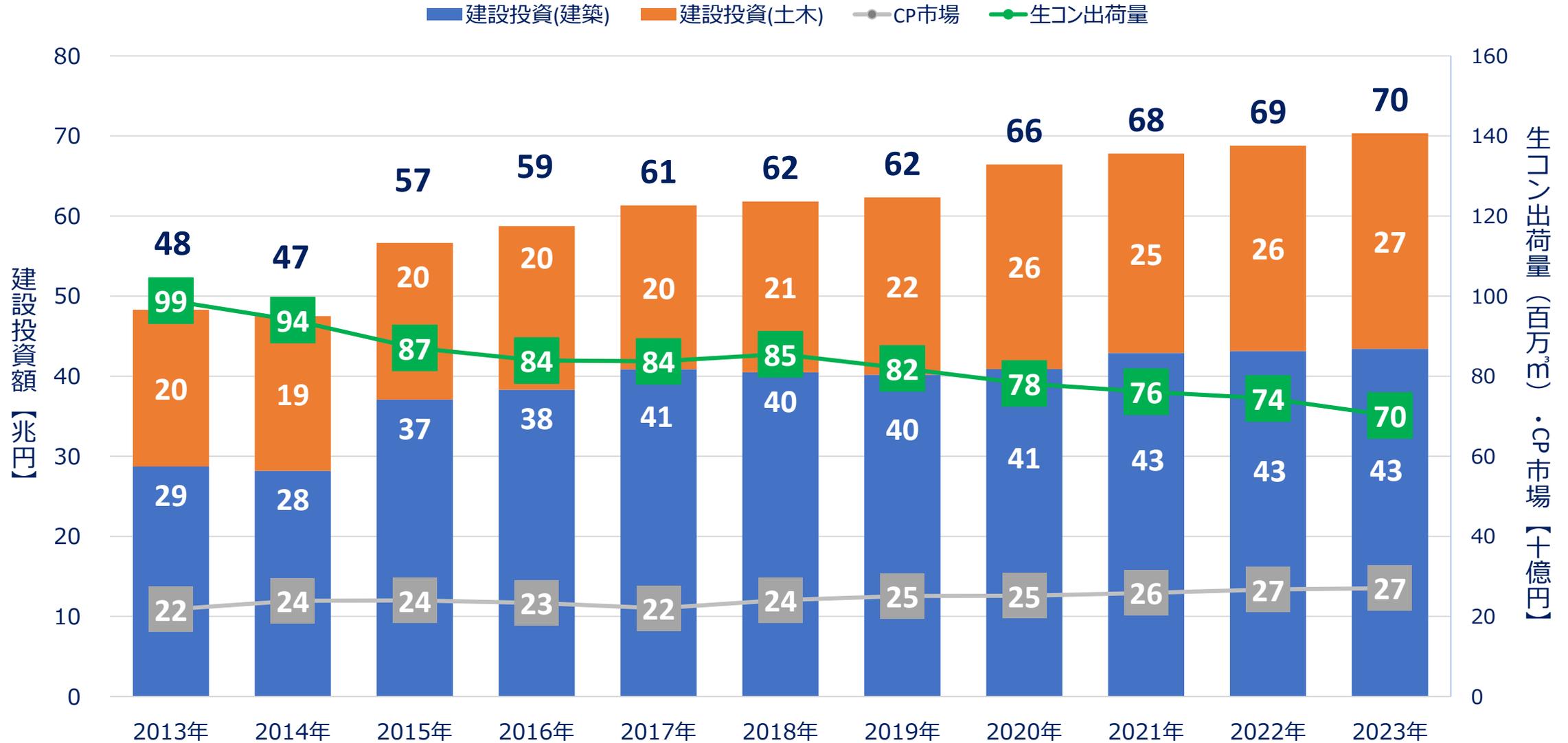
- 人手不足を背景とした自動化や工程集約の案件は増加
- 半導体、電気自動車向けの需要がひと段落し、工作機械業界は不調

## 海外市場

### 減収（売上高前期比△3.4%）

- 中国の景気減速によりアジアを中心に企業の設備投資減少
- 欧米は航空機、医療などインフラ向け設備投資が堅調に推移
- インドは旺盛な内需に支えられ、前年度並みに推移

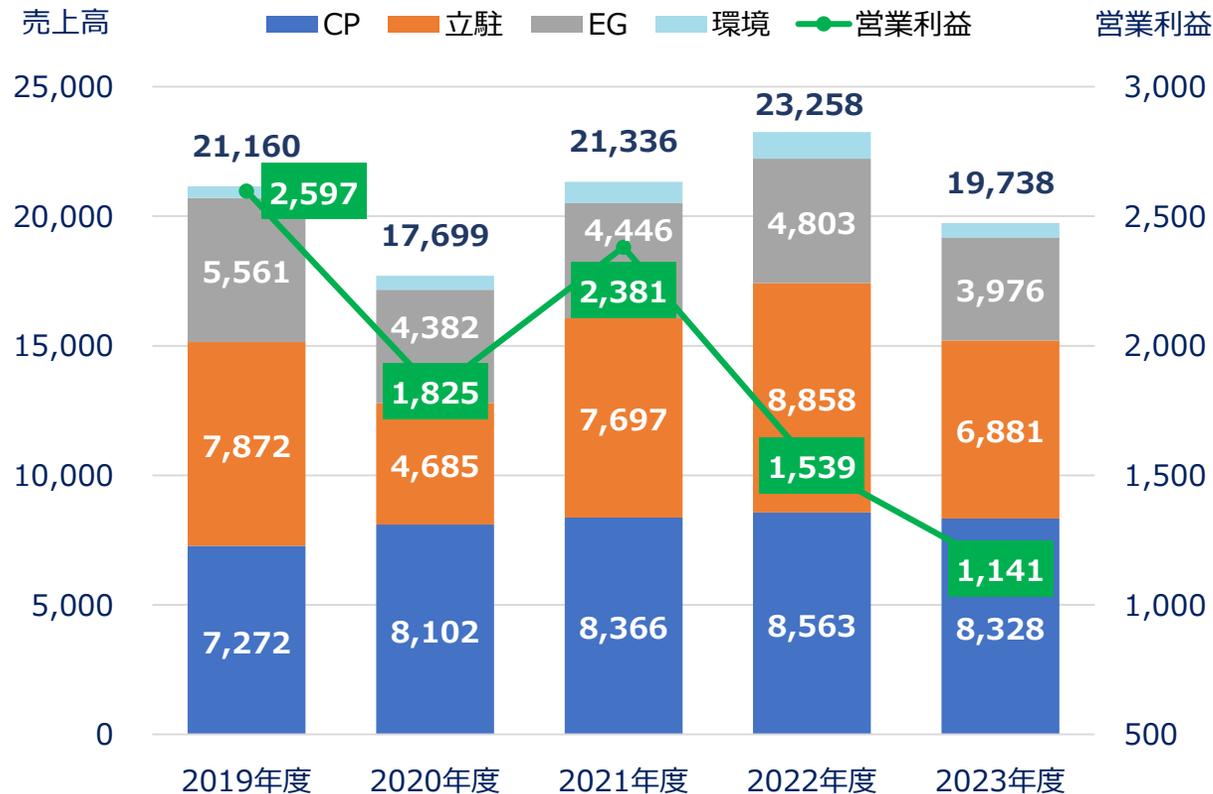
### 全国建設投資見通し・生コン出荷量・CP販売高推移



資料：国交省 建設投資見通し、全国生コン工業組合連合会、建設機械工業会

単位：百万円

	2022年度	2023年度	前期比（率）
受注高	23,823	<b>22,858</b>	△965 (△4.0%)
売上高	23,258	<b>19,738</b>	△3,520 (△15.1%)
営業利益	1,539	<b>1,141</b>	△398 (△25.9%)
利益率（%）	6.6	<b>5.8</b>	— (△0.8pt)



## コンクリートプラント（CP）

**減収**（売上高前期比△ 2.7%）

- 設備更新需要は旺盛であり受注は堅調に推移
- 受注案件の納期長期化により減収

## 立体駐車場

**減収**（売上高前期比△ 22.3%）

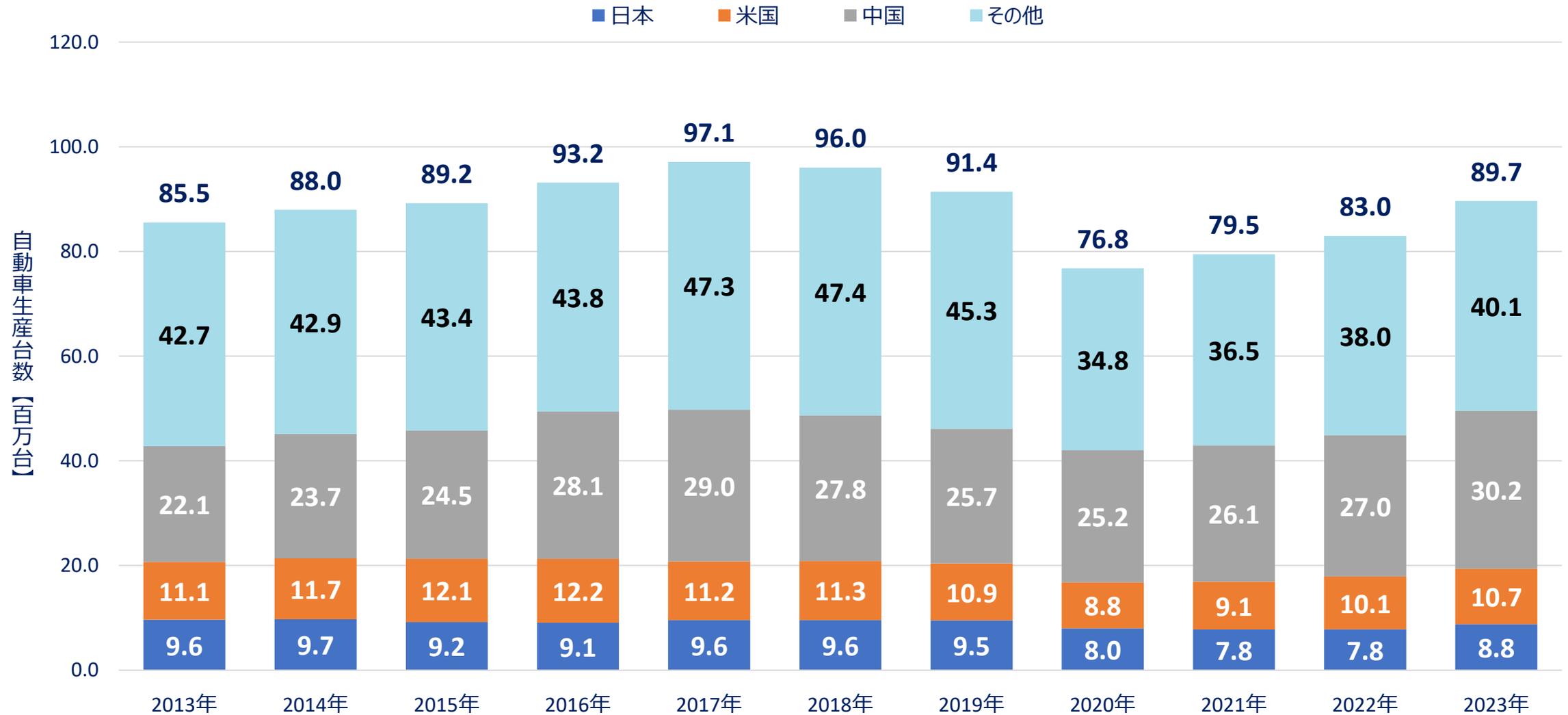
- 材料費等の高止まりによる、建設計画見直しや延期が増加
- 受注案件の納期長期化により減収

## 荷役機械関連設備（EG）

**減収**（売上高前期比△ 17.2%）

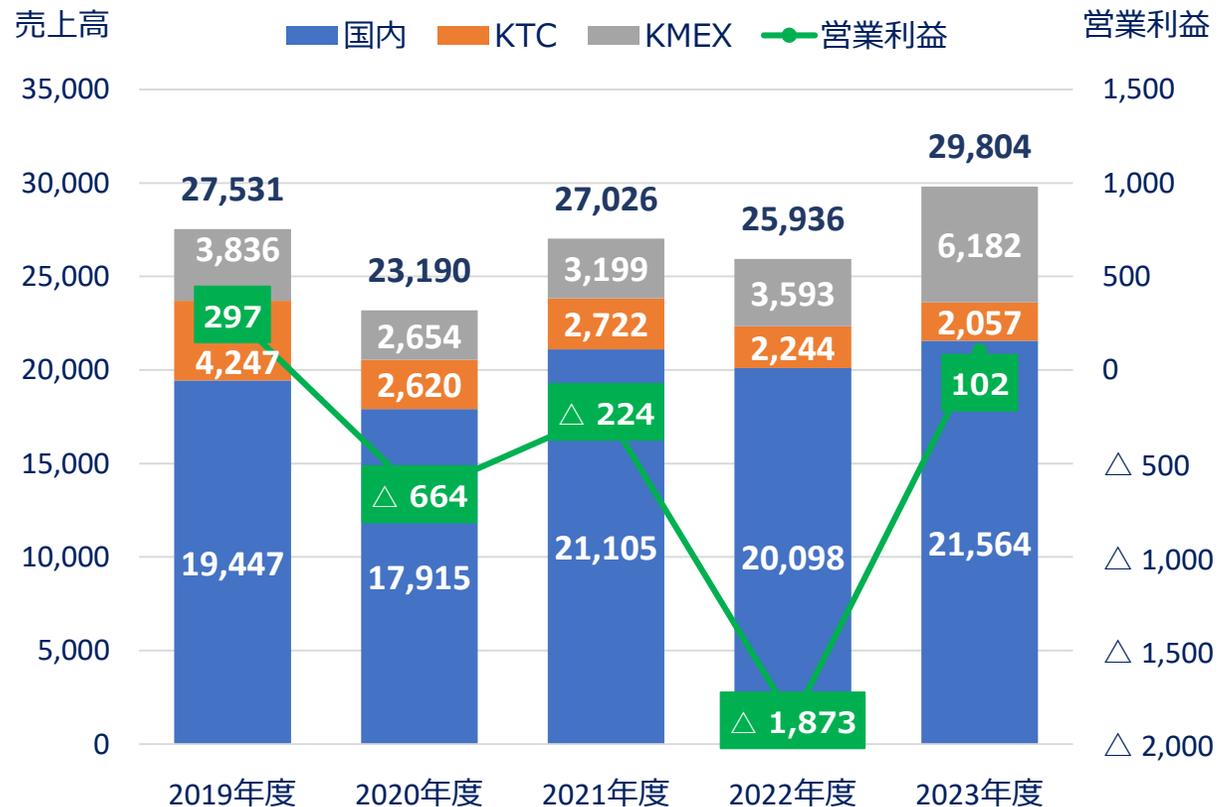
- 労働者不足により工事の進捗が遅延
- 関東圏の需要は一服感はあるものの、関西・その他地方都市での引き合い増加
- 風車用、鉄塔用クレーン等の受注により工場高稼働を維持

## 自動車生産台数推移



単位：百万円

	2022年度	2023年度	前期比（率）	
売上高	25,936	<b>29,804</b>	3,868	(14.9%)
営業利益	△1,873	<b>102</b>	1,975	(一)
利益率（%）	△7.2	<b>0.3</b>	—	(7.5pt)



## 日本国内

**増収**（売上高前期比+7.3%）

- 自動車生産が堅調に推移し増収
- 原材料・電気代等コスト上昇分の販売価格への転嫁、生産性改善により収益改善

## 海外（タイ、メキシコ）

**増収**（売上高前期比+41.1%）

- 自動車生産が回復しメキシコ工場増収

## KTC : タイ子会社

単位：百万円

	2022年度	2023年度	前期比（率）	
売上高	2,244	<b>2,057</b>	△ 187	(△8.4%)
営業利益	△ 840	△ <b>549</b>	290	(—)
当期純利益	△ 1,384	△ <b>853</b>	530	(—)

- 将来的な投資回収の見込みが立たないと判断し、2023年12月に操業停止
- 操業停止に伴う在庫作りだめ等により営業利益は290百万円損失減少
- 工場操業停止に伴う構造改革費用317百万円を特別損失に計上

## KMEX : メキシコ子会社

単位：百万円

	2022年度	2023年度	前期比（率）	
売上高	3,593	<b>6,182</b>	2,589	(72.1%)
営業利益	△ 841	△ <b>465</b>	375	(—)
当期純利益	△ 1,009	△ <b>498</b>	511	(—)

- 半導体不足解消による自動車生産回復、並びに新規受注品の量産開始により増収
- 材料費等の調達コストの高止まり、加えて増産による残業や休日出勤等の人件費負担が増大
- ペソ通貨高（対ドル）により利益圧迫
  - …売上はドルベースだが、支払費用はペソ建が多いためペソ通貨高により原価増加要因となる

事業構造転換の一環としてM&Aにより北川グレステック株式会社※を取得

単位：百万円

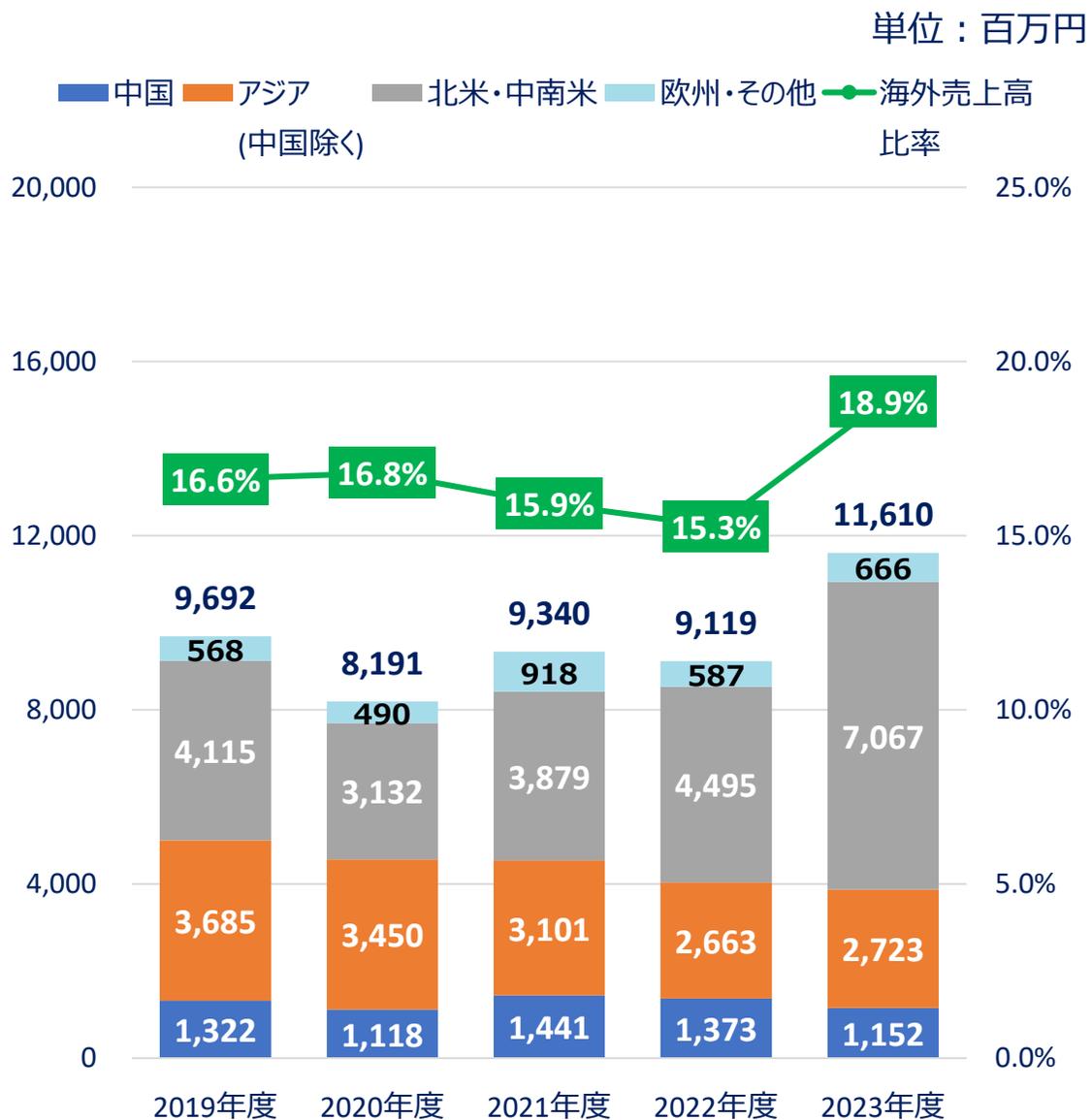
セグメント		2022年度	2023年度	前期比	増減率
<b>NEW</b> 北川グレステック株式会社 (半導体関連事業)	売上高	—	<b>1,363</b>	1,363	—
	営業利益	—	<b>207</b>	207	—
その他 (特殊工作機械、 UAV事業 ほか)	売上高	694	<b>1,427</b>	733	105.6%
	営業利益	△108	<b>170</b>	278	—
合計	売上高	694	<b>2,791</b>	2,096	302.1%
	営業利益	△108	<b>378</b>	486	—

- **売上高**は北川グレステック株式会社の2023年度下期からの**連結寄与**並びに特殊工作機械市場での**市場開拓**により、前期比**20.9億円増**の**27.9億円**
- **営業利益**は北川グレステック株式会社の**連結寄与**並びに**特殊工作機械（ウォーターカッター）**の**新規加工品市場への販売増**により、前期比**4.8億円増**の**3.8億円**

※ 2023年7月31日付で半導体研磨材の輸入販売・研磨加工に関する総合技術サポート事業の**ケメット・ジャパン（株）**、HDD関連部品の製造装置の製造・販売事業の**システム精工（株）**の株式を100%取得し、2024年4月1日付で2社の合併を行うとともに**北川グレステック（株）**へ商号変更

単位：百万円

	2022年度	2023年度	前期比
<b>特別利益</b>	98	<b>783</b>	685
固定資産売却益	98	<b>90</b>	△8
投資有価証券売却益	－	<b>587</b>	587
助成金収入	－	<b>105</b>	105
<b>特別損失</b>	880	<b>748</b>	△132
事業構造改革費用（タイ工場閉鎖に伴う費用）	564	<b>317</b>	△247
固定資産除却損	229	<b>248</b>	19
本社再構築に伴う費用	161	<b>100</b>	△61
その他	68	<b>148</b>	80
その他	86	<b>183</b>	96
<b>特別損益 合計</b>	△782	<b>34</b>	817



## 中国

**減収** (売上高前期比  $\Delta$  16.1%)

- 景気減速により企業の設備投資などが伸び悩む

## アジア (中国除く)

**増収** (売上高前期比 +2.3%)

- タイ、インド市場が堅調に推移

## 北米・中南米

**増収** (売上高前期比 +57.2%)

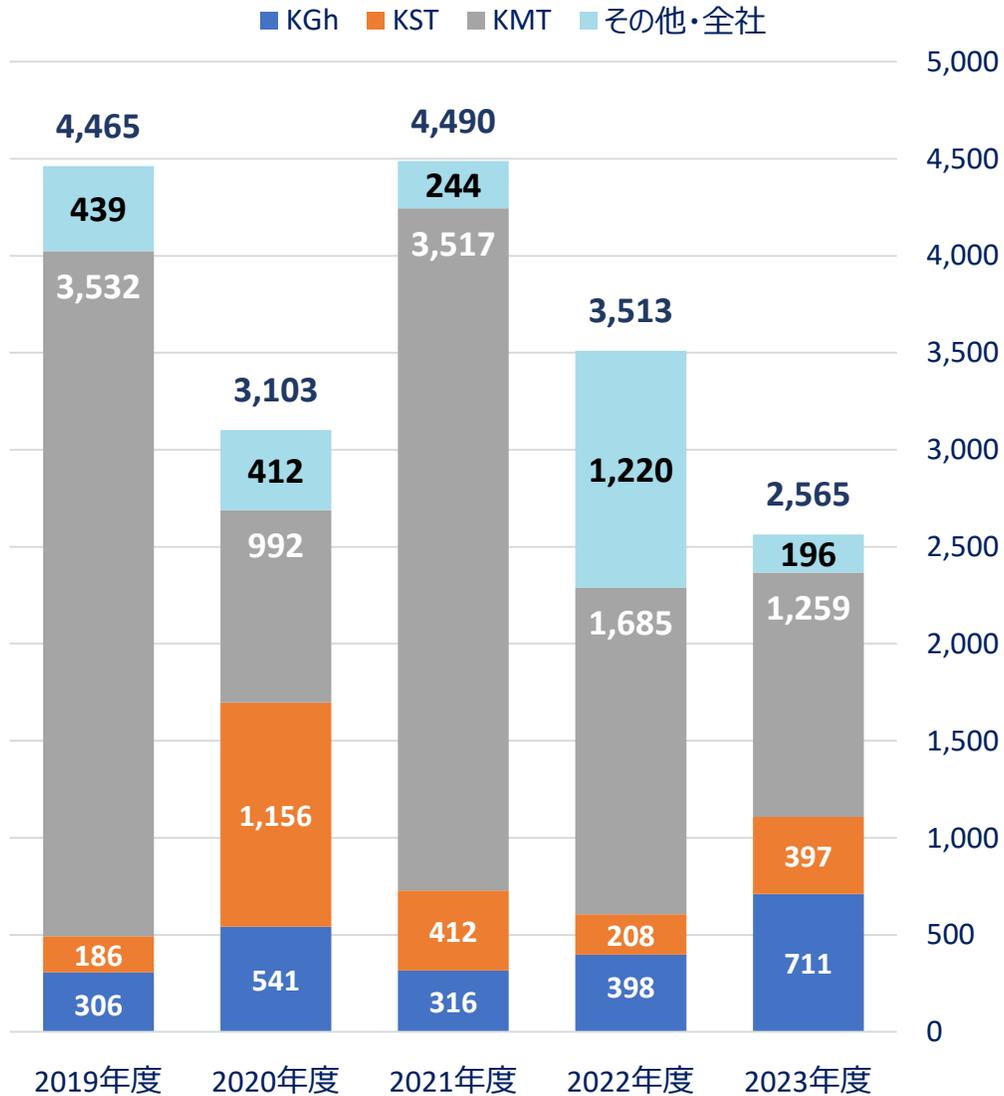
- 自動車生産回復に伴いKMEXが増収

## 欧州・その他

**増収** (売上高前期比 +13.4%)

- 販売エリア拡大により増収

単位：百万円



- 本社再構築関連にかかる設備投資に8億円 (KGh設備：6億円、その他：2億円)
- KMTのメキシコでの新規案件受注にかかる設備投資に4億円

単位：百万円

	2021年度	2022年度	2023年度	前期比	
設備投資	KGhカンパニー	316	398	<b>711</b>	312
	KSTカンパニー	412	208	<b>397</b>	189
	KMTカンパニー	3,517	1,685	<b>1,259</b>	△ 426
	其他・全社	244	1,220	<b>196</b>	△ 1,023
	合計	4,490	3,513	<b>2,565</b>	△ 948

単位：百万円



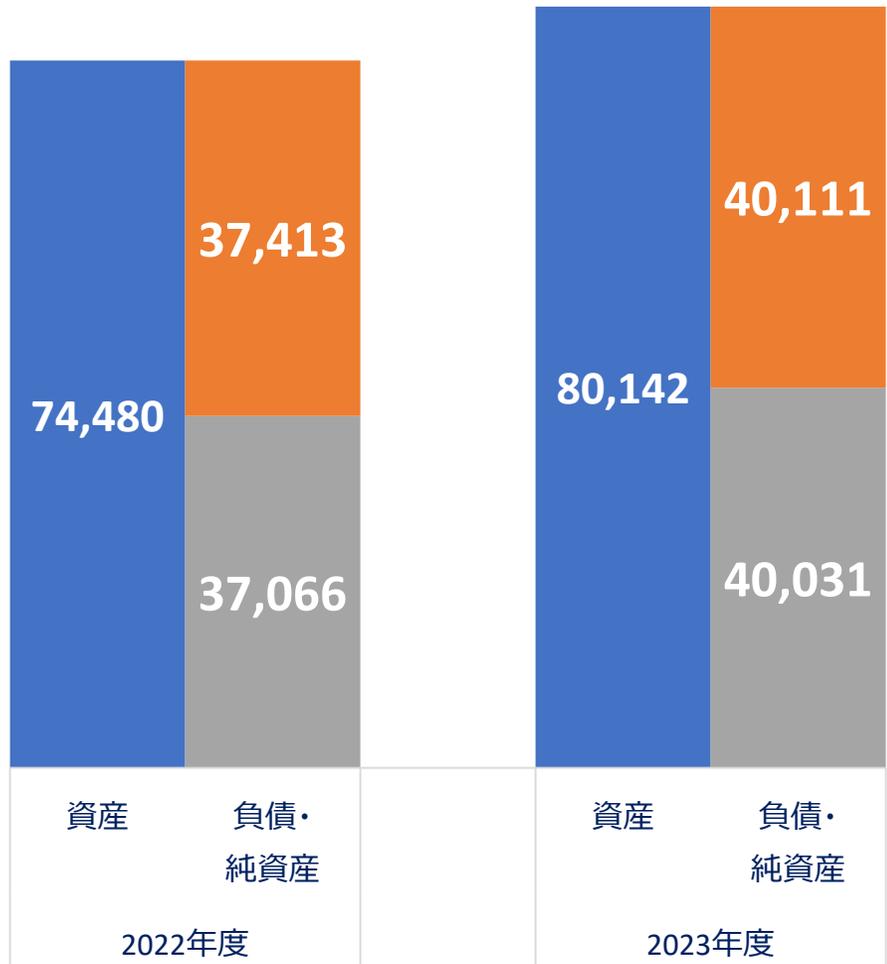
	2022年度	2023年度	前期比
<b>営業C/F</b>	2,807	<b>4,880</b>	2,072
内：税前利益	252	<b>2,444</b>	2,192
内：減価償却費	3,220	<b>3,495</b>	274
内：投資有価証券売却損益	—	△ <b>587</b>	△587
内：運転資金増減	753	△ <b>364</b>	△1,117
<b>投資C/F</b>	△2,802	△ <b>3,080</b>	△277
内：設備取得支出	△3,098	△ <b>3,032</b>	65
内：投資有価証券売却収入	0	<b>822</b>	822
内：子会社株式取得※	—	△ <b>1,140</b>	△1,140
<b>フリーC/F</b>	5	<b>1,800</b>	1,795
<b>財務C/F</b>	△686	<b>292</b>	978
換算差額	228	<b>125</b>	△103
現金同等物の期末残高	8,148	<b>10,367</b>	2,218

※子会社株式取得△1,140百万円は被取得企業の現預金約700百万円受け入れを考慮した純額表示

単位：百万円

■ 総資産 ■ 純資産 ■ 負債

【百万円】



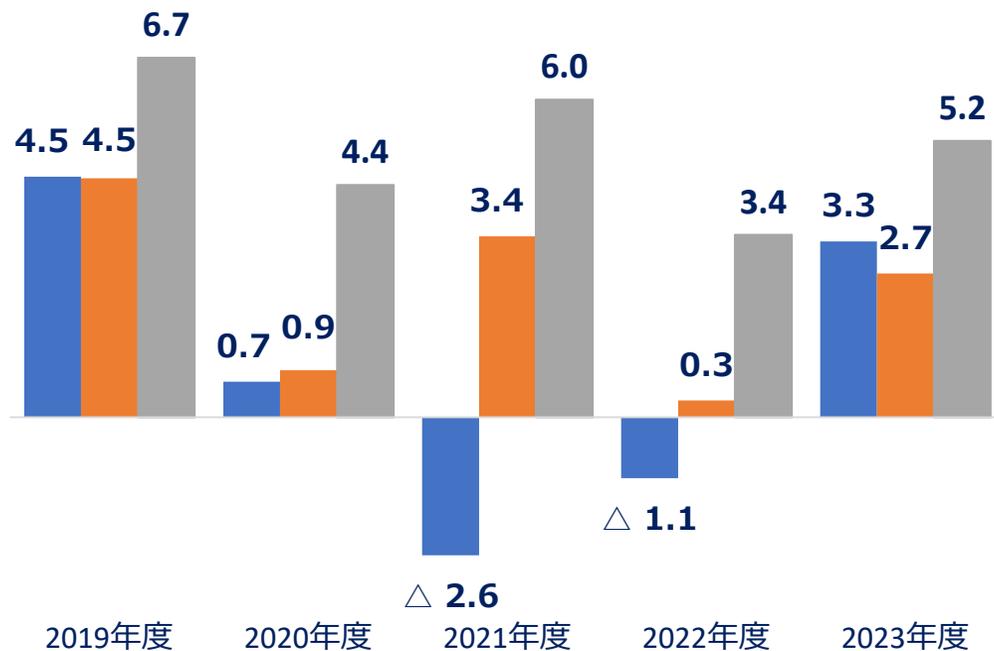
	2022年度	2023年度	前期比
<b>資産の部</b>	74,480	<b>80,142</b>	5,661
内：現金預金	8,413	<b>10,646</b>	2,232
内：売上債権	19,107	<b>17,399</b>	△1,707
内：棚卸資産	11,705	<b>13,009</b>	1,304
内：有形・無形 固定資産	26,235	<b>26,429</b>	193
内：投資その他の資産	8,226	<b>11,642</b>	3,416
<b>負債の部</b>	37,413	<b>40,111</b>	2,697
内：仕入債務	12,076	<b>10,086</b>	△1,989
内：有利子負債※	13,823	<b>16,242</b>	2,419
<b>純資産の部</b>	37,066	<b>40,031</b>	2,964
内：自己資本	36,864	<b>40,027</b>	3,163
<b>負債・純資産合計</b>	74,480	<b>80,142</b>	5,661

※有利子負債2,419百万円増には新規連結子会社の借入金残高および外貨建て借入金の為替評価替えを含む

単位：%、百万円

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前期比
<b>ROE</b>	: 自己資本利益率	4.5	0.7	△ 2.6	△ 1.1	<b>3.3</b>	+4.4pt
<b>ROIC</b>	: 投下資本利益率	4.5	0.9	3.4	0.3	<b>2.7</b>	+2.4pt
<b>Cap比率</b>	: キャパ列化率	23.9	26.2	26.9	27.3	<b>28.9</b>	+1.6pt
<b>EBITDA</b>	: 償却前営業利益	6,737	4,352	5,950	3,415	<b>5,176</b>	1,760

■ ROE (%) ■ ROIC (%) ■ EBITDA (10億円)



- ROE**  
 当期純利益13億円の計上により前期比+4.4ptの3.3%  
 2020年度以来のプラス転換
- ROIC**  
 税引後営業利益の増加により前期比+2.4ptの  
 2.7%
- Cap比率**  
 M&Aにかかる有利子負債増加を主因に前期比+1.6ptの  
 28.9%
- EBITDA**  
 営業利益の増加により前期比17.6億円増の51.7億円

単位：百万円

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前期比
<b>ROE</b> ①÷②	4.5%	0.7%	△ 2.6%	△ 1.1%	<b>3.3%</b>	+ 4.4pt
① 親会社株主に帰属する 当期純利益	1,645	244	△ 951	△ 418	<b>1,267</b>	1,685
② 自己資本 (期中平均)	36,492	36,948	36,760	36,595	<b>38,445</b>	1,850
<b>ROIC</b> ①÷②	4.5%	0.9%	3.4%	0.3%	<b>2.7%</b>	+ 2.4pt
① 連結営業利益×(1－実効税率)	2,021	383	1,461	135	<b>1,168</b>	1,033
② 固定資産+運転資金 (期中平均)	45,154	43,671	43,110	42,945	<b>43,446</b>	501
<b>Cap比率</b> ①÷(①+②)	23.9%	26.2%	26.9%	27.3%	<b>28.9%</b>	+ 1.6pt
① 有利子負債	11,503	13,187	13,398	13,823	<b>16,242</b>	2,419
② 自己資本	36,712	37,184	36,326	36,864	<b>40,027</b>	3,163
<b>EBITDA</b> ①+②	6,737	4,352	5,950	3,415	<b>5,176</b>	1,760
① 営業利益	2,907	551	2,101	194	<b>1,680</b>	1,486
② 減価償却費	3,830	3,801	3,849	3,220	<b>3,495</b>	274

1. 会社概要
2. 2023年度 決算報告
- 3. 2024年度 事業計画**
4. 2023年度 トピックス

- **売上高**は産業機械事業での増収を見込むが金属素形材事業におけるKTC工場閉鎖および自動車部品受注減を見込み、前期比**30億円減の585億円**の見込み
- **営業利益**は売上高が大きく減少するもKTCの赤字減少と産業機械事業の増益を主因に前期比**0.2億円増の17億円**の見込み
- **経常利益**は為替差損益を織り込まず**22億円**の見込み（前年度為替差益3.2億円）
- **当期純利益**は税額が減ることから**16億円**の見込み

単位：百万円

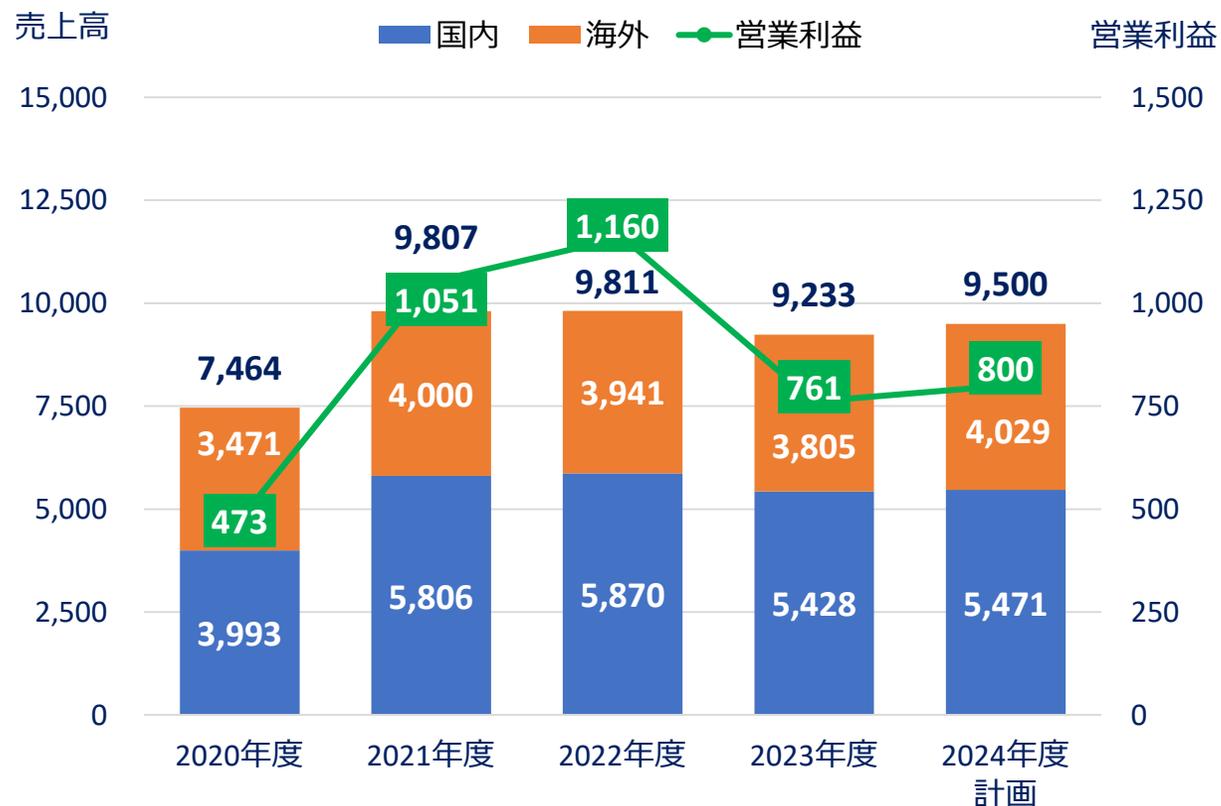
	2023年度	2024年度計画	前期比	増減率
売上高	61,567	58,500 	△ 3,067	△ 5.0%
営業利益	1,680	1,700 	19	1.2%
営業利益率（%）	2.7	2.9 	0.2pt	—
経常利益	2,409	2,200 	△ 209	△ 8.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,267	1,600 	332	26.3%

単位：百万円

セグメント		2023年度	2024年度計画	前期比	増減率
KGhカンパニー (工作機器事業)	売上高	9,233	<b>9,500</b>	267	2.9%
	営業利益	761	<b>800</b>	39	5.1%
KSTカンパニー (産業機械事業)	売上高	19,738	<b>20,500</b>	762	3.9%
	営業利益	1,141	<b>1,600</b>	459	40.2%
KMTカンパニー (金属素形材事業)	売上高	29,804	<b>25,250</b>	△ 4,554	△ 15.3%
	営業利益	102	<b>0</b>	△ 102	—
その他事業	売上高	2,791	<b>3,250</b>	459	16.4%
	営業利益	378	<b>100</b>	△ 278	△ 73.5%
共通費用	営業利益	△ 702	△ <b>800</b>	△ 98	—
合計	売上高	61,567	<b>58,500</b>	△ 3,067	△ 5.0%
	営業利益	1,680	<b>1,700</b>	19	1.2%

単位：百万円

	2023年度	2024年度計画	前期比（率）	
売上高	9,233	<b>9,500</b>	267	(2.9%)
営業利益	761	<b>800</b>	39	(5.1%)
利益率（%）	8.2	<b>8.4</b>		(0.2pt)



## 国内市場

### 増収（売上高前期比+0.8%）

- 半導体製造装置や電気自動車対応に向けた需要増加により下期より回復の見込み

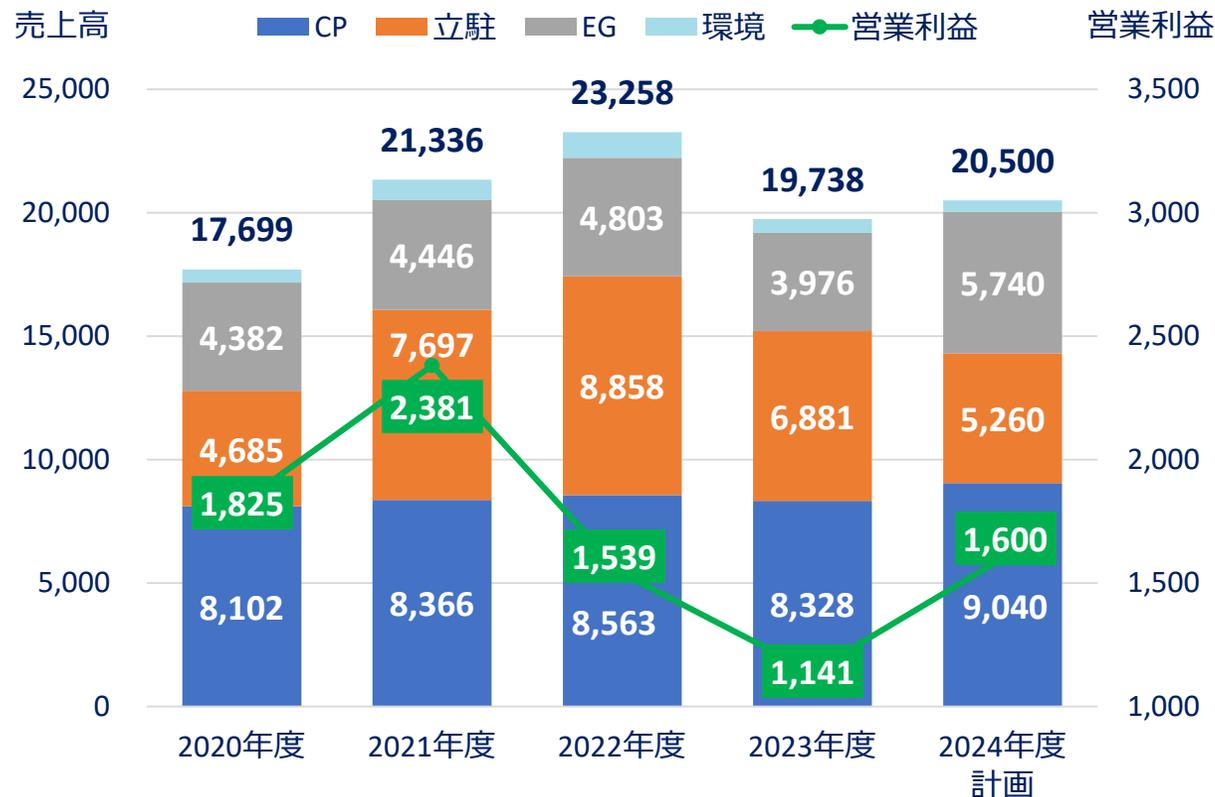
## 海外市場

### 増収（売上高前期比+5.9%）

- 中国市況に不安はあるが、インド・欧米は比較的安定し堅調に推移の見込み
- メキシコ販売拠点新設も増収に寄与

単位：百万円

	2023年度	2024年度計画	前期比（率）	
売上高	19,738	<b>20,500</b>	762	(3.9%)
営業利益	1,141	<b>1,600</b>	459	(40.2%)
利益率（%）	5.8	<b>7.8</b>		(2.0pt)



## コンクリートプラント（CP）

**増収**（売上高前期比+8.5%）

- 設備更新需要が旺盛であること、前期受注案件の納期到来により増収の見込み

## 立体駐車場

**減収**（売上高前期比△23.5%）

- 材料費、人件費の高止まりを起因とした施主の計画見直しや延期により減収の見込み
- 施工対応力を高め収益確保を目指す

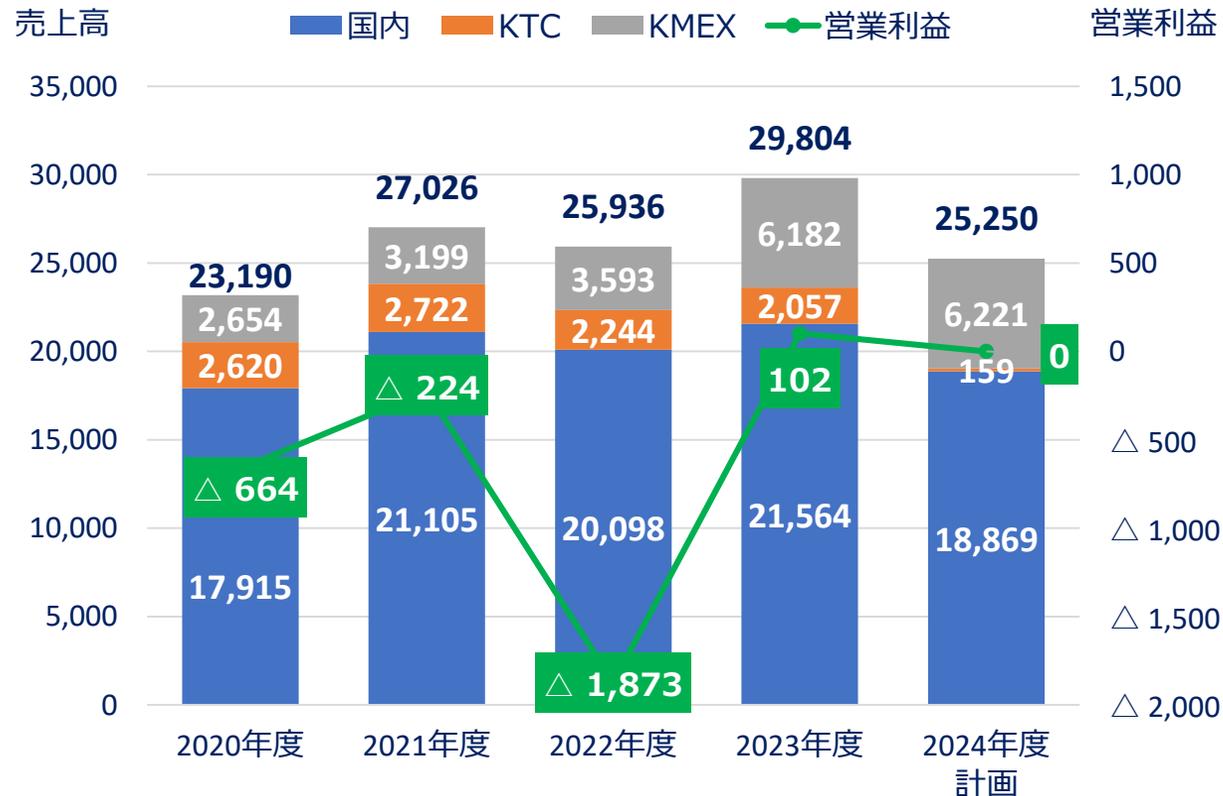
## 荷役機械関連設備（EG）

**増収**（売上高前期比+44.3%）

- ダム、風車用クレーンなどの大型案件により増収の見込み

単位：百万円

	2023年度	2024年度計画	前期比（率）
売上高	29,804	<b>25,250</b>	△4,554 (△15.3%)
営業利益	102	<b>0</b>	△ 102 (—)
利益率 (%)	0.3	<b>0.0</b>	(△ 0.3pt)



## 日本国内

**減収** (売上高前期比△ 12.5%)

- 自動車トランスミッション部品の受注減少
- ポートフォリオを見直し、来年度以降の収益確保を図る

## 海外 (タイ、メキシコ)

**減収** (売上高前期比△ 22.6%)

- タイ工場閉鎖により減収
- メキシコは北米の自動車販売好調を受け、高い受注水準が継続

## KTC：タイ子会社

単位：百万円

	2022年度	2023年度	2024年度 計画	前期比
売上高	2,244	2,057	<b>159</b>	△ 1,897
営業利益	△ 840	△ 549	△ <b>43</b>	505

- 操業停止前の生産在庫分を販売計画に計上

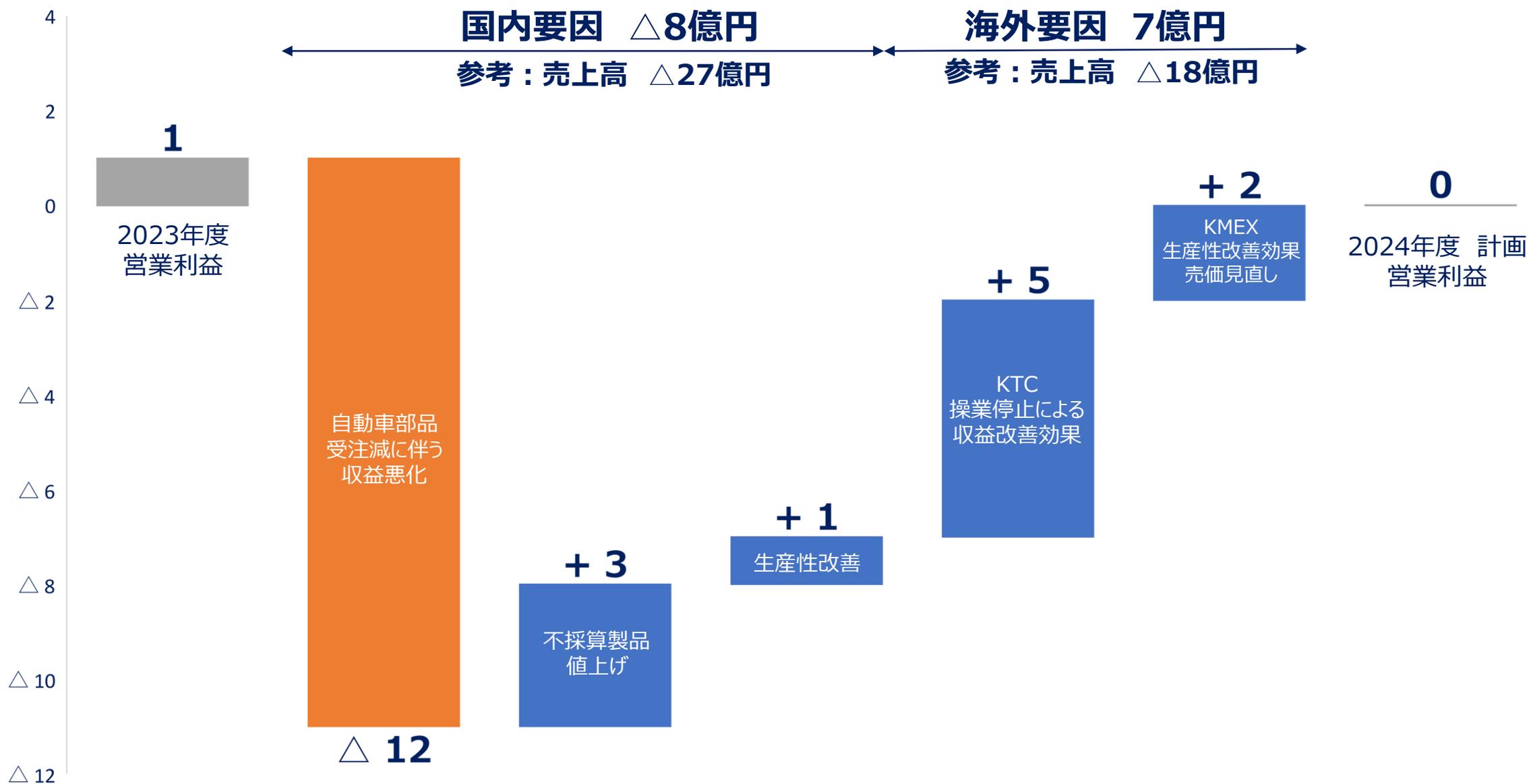
## KMEX：メキシコ子会社

単位：百万円

	2022年度	2023年度	2024年度 計画	前期比
売上高	3,593	6,182	<b>6,221</b>	38
営業利益	△ 841	△ 465	△ <b>265</b>	200

- 北米での自動車販売好調
- 高い操業度を維持しつつ売価見直しや生産性改善を進め早期黒字化を目指す

単位：億円

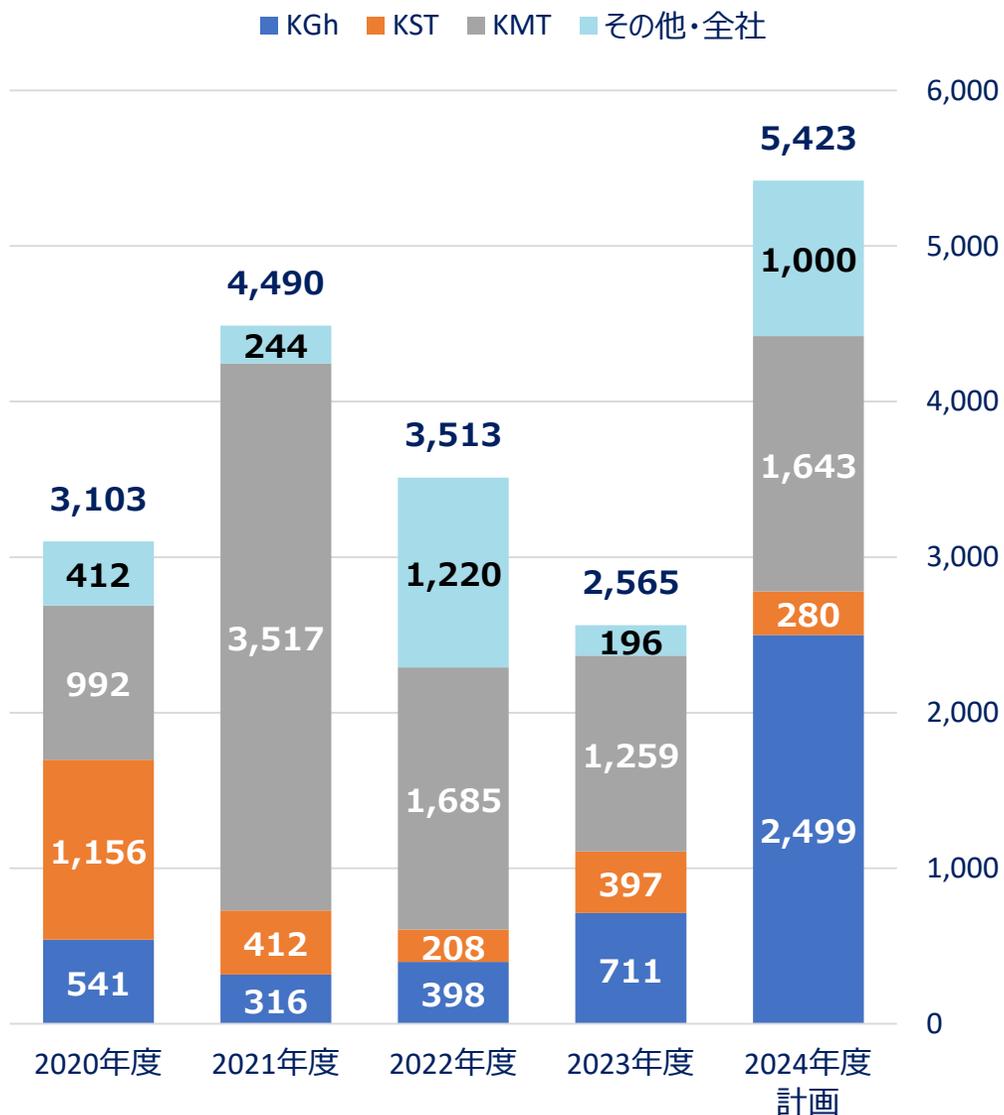


単位：百万円

セグメント		2023年度	2024年度計画	前期比	増減率
<b>NEW</b> 北川グレステック株式会社 (半導体関連事業)	売上高	1,363	<b>2,250</b>	886	65.0%
	営業利益	207	<b>100</b>	△107	△51.8%
その他 (特殊工作機械、 UAV事業 ほか)	売上高	1,427	<b>1,000</b>	△427	△29.9%
	営業利益	170	<b>0</b>	△170	—
合計	売上高	2,791	<b>3,250</b>	458	16.4%
	営業利益	378	<b>100</b>	△278	△73.5%

- **売上高**は2023年度下期より連結子会社となった北川グレステック株式会社が**通期連結寄与（8.8億円増）**するものの特殊工作機械（ウォーターカッター）の**販売一服など（4.2億円減）**により、前期比**4.5億円増の32億円**の見込み
- **営業利益**は収益率の高い商品の**販売一服**などにより、前期比**2.7億円減の1億円**の見込み

単位：百万円

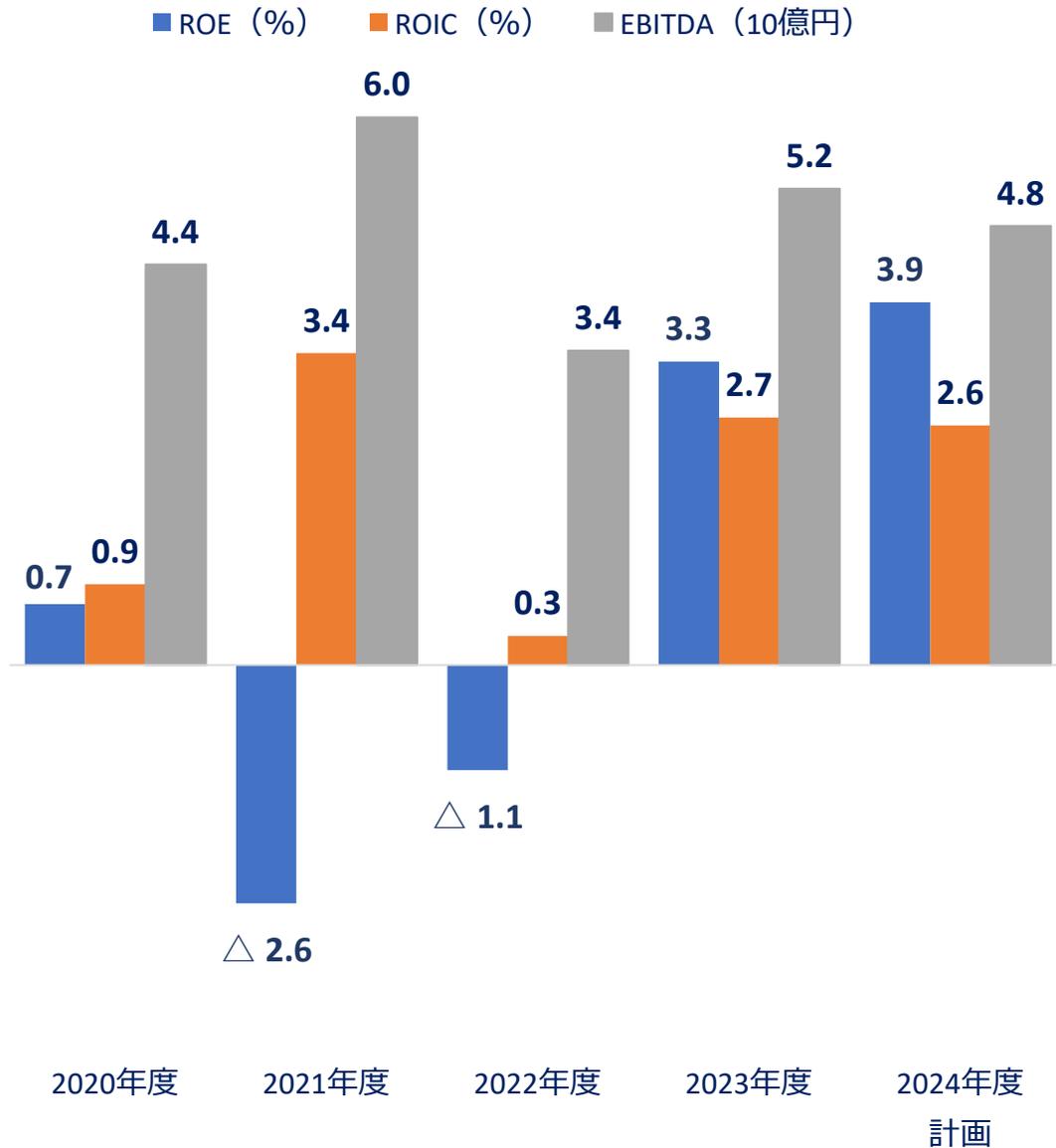


- KGhインド事業の進出拡大にかかる設備投資に3億円
- 半導体関連事業の新製品開発にかかる設備投資に5億円
- KMTのメキシコでの新規案件受注にかかる設備投資に3億円
- 本社再構築関連にかかる設備投資に17億円  
(KGh設備：16億円、その他：1億円)

単位：百万円

		2023年度	2024年度計画	前期比
設備投資	KGhカンパニー	711	<b>2,499</b>	1,787
	KSTカンパニー	397	<b>280</b>	△ 117
	KMTカンパニー	1,259	<b>1,643</b>	384
	その他・全社	196	<b>1,000</b>	803
	合計	2,565	<b>5,423</b>	2,857

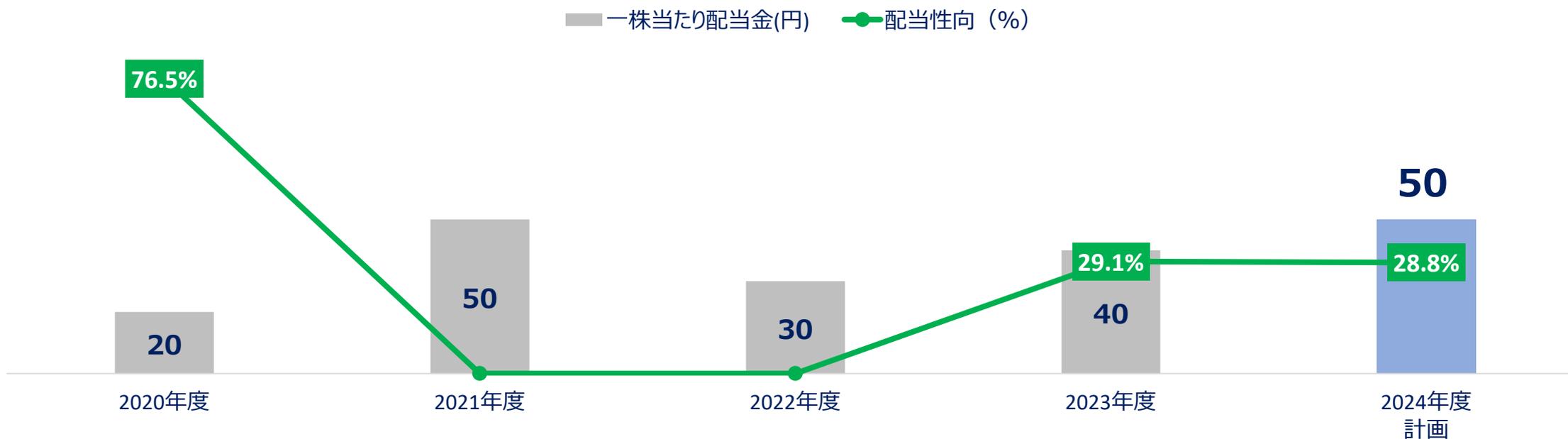
単位：百万円



	2023年度	2024年度計画	前期比
<b>ROE</b> ①÷②	3.3%	3.9%	+ 0.6pt
① 親会社株主に帰属する当期純利益	1,267	1,600	332
② 自己資本 (期中平均)	38,445	40,596	2,150
<b>ROIC</b> ①÷②	2.7%	2.6%	△ 0.1pt
① 連結営業利益×(1-実効税率)	1,168	1,182	14
② 固定資産+運転資金 (期中平均)	43,446	45,377	1,930
<b>EBITDA</b> ①+②	5,176	4,770	△ 406
① 営業利益	1,680	1,700	19
② 減価償却費	3,495	3,070	△ 425

- ROE  
当期純利益16億円を計画しており+0.6pt改善の3.9%の見込み
- ROIC  
本社再構築関連にかかる設備投資17億円などの固定資産増加、運転資金増加により前期比微減の2.6%の見込み
- EBITDA  
タイ工場分の減価償却費減などにより前期比4億円減の47.7億円の見込み

- 当社は連結配当性向 30%を目標に株主還元の方針
- 2023年度は、一株当たり 40円の配当を実施予定
- 2024年度の一株当たり配当金は前年度比10円増額の50円を計画  
配当性向は28.8%となる見込み



1. 会社概要
2. 2023年度 決算報告
3. 2024年度 事業計画
4. **2023年度 トピックス**

## トピックス ①

- M&A による成長分野への参入

## 概要

- 2023年7月31日付で、半導体研磨材の輸入販売・研磨加工に関する総合技術サポート事業のケメットジャパン(株)※、HDD関連部品の製造装置の製造・販売事業のシステム精工(株)※の株式を100%取得、当社は2社を併せて取得することで半導体事業へ参入  
※2024年4月1日付で、ケメット・ジャパン(株)及びシステム精工(株)を合併し、北川グレステック(株)へ商号変更



進歩するという意味の語根

機械設計技術・半導体加工技術

## 北川グレステック(株)の事業領域



## 半導体(製造装置・受託加工)

- CMP装置・洗浄機の製造販売を中心にプロセスの開発や受託加工、消耗品販売まで幅広く対応

## 自動化・省人化(ファクトリーオートメーション)

- HDDや半導体関連をはじめ、既存設備の自動化・省人化など顧客ニーズに合わせたご提案を実施



## HDD用研磨装置

- ハードディスク用アルミ基板の両面研削・両面研磨装置では世界トップシェア



## 精密研磨(消耗品販売・受託加工)

- 英ケメット社製ダイヤモンドスラリーの他様々な研磨消耗品の販売と精密研磨受託加工を実施

## トピックス ②

- 円テーブルがモノづくり部品大賞受賞

## 概要

- 大径ワークなどに適応したダウンサイジング高速傾斜円テーブル（RKT-500）が「2023年“超”モノづくり部品大賞」の「機械・ロボット部品賞」を受賞



RKT-500

- 今後増加が見込まれるEV自動車部品のバッテリーケースなどのワークに対応した製品
- 加工機械のダウンサイジングが可能

## トピックス ③

- 鉄塔建設用新型タワークレーン開発

## 概要

- シンプルな構造が特徴で、運送や組立が容易かつ、剛性を高めた仕様の鉄塔建設用新型タワークレーンを開発
- 再生可能エネルギー拡大に必要な送電網の整備について、北海道や九州と、本州を結ぶ整備計画も具体化し、今後の需要に期待



## トピックス ④

- 生コンプラント産業廃棄物削減への取り組み  
「スラッジ水再利用技術」が2023年度リサイクル技術開発本多賞を受賞  
「省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金」における先進設備・システムに採択

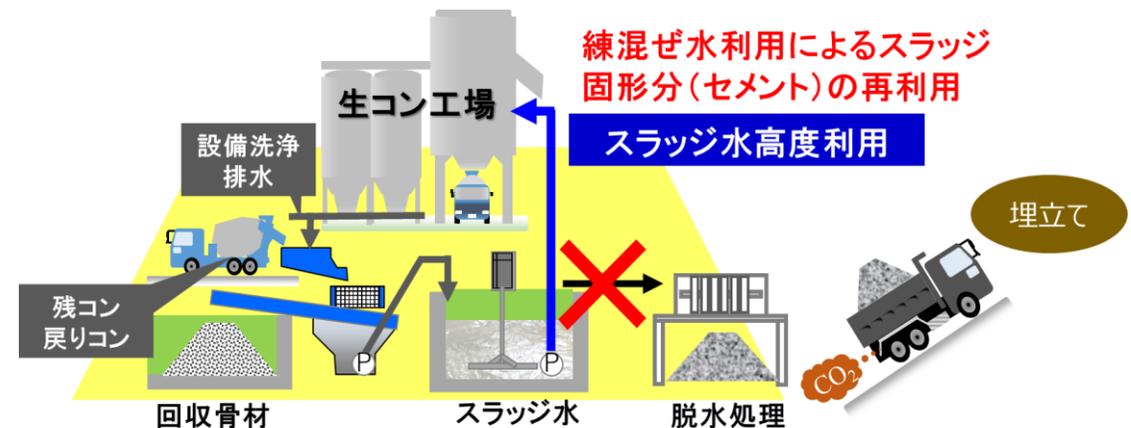
## 概要

- 生コンクリート工場で、設備洗浄の際などに発生する排水「スラッジ水」に含まれるセメントの再利用技術を島根大学など4団体と共同開発し、2023年度リサイクル技術開発本多賞を受賞
- 2024年3月改正“日本産業規格(JIS) A5308”に「スラッジ水」の安定化管理の方法の一つとして記載  
スラッジ水の国内発生量は年間推定115万トンあり、本技術が全国で利用されれば、年間約87万トンのCO<sub>2</sub>削減が期待できる

## 【本技術の先進性について】

・スラッジ水中のセメント利用については、使用直前のスラッジ水中のセメント水和活性の残存状態を把握する手段がなく、さらに、凝結遅延成分の残存量も不明であったことから、信頼性を担保できるコンクリート製造ができないなどの理由で実現しなかった。

本技術により、不明であった凝固遅延成分の残存量とセメント水和活性を、分析技術により数値的に把握できるようにしたもので、廃棄物削減、省エネルギー、品質評価などこれまでにないコンクリート分野の先進的な製造プロセスの創出に寄与。

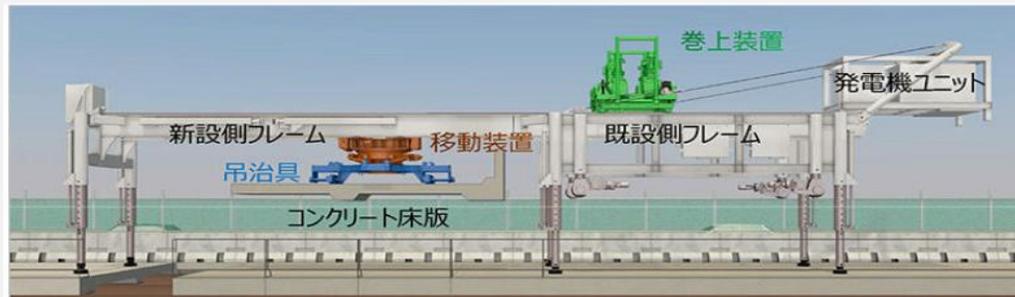


## トピックス ⑤

- 高速道路リニューアル工事向け半断面床版取替機の開発

## 概要

- 大成建設(株)と共同で、高速道路リニューアルにおける専用床版取替機を開発、2024年度から納入開始
- 特長：組立・解体に組立用重機が不要及びクレーンに該当しないため落成検査が不要
- 従来の組立・検査期間、施工期間の大幅短縮



大成建設ニュースリリースより抜粋

## トピックス ⑥

- 立体駐車場 スーパーロングスパン特許を取得

## 概要

- 自動運転等、将来的な変化に対応可能な駐車場とすることで、他社との差別化を図り、メーカーとしての地位を確立するため開発を開始
- 中央部はラーメン構造、外周部はブレース構造、夫々の良さをバランス良く組合せたハイブリッド構造を採用し、駐車場内に無柱空間(17m)を確保（従来はブレース構造で12～13m）
- 他社同等品との価格競争力アップ
- 無柱空間とすることで、スペースの有効利用と駐車しやすさが特徴



## トピックス ⑦

- カーボンニュートラルへの取り組み

## 概要

- 省エネ（太陽光パネル設置）への取り組み実績  
22年3月福山工場：431kW  
23年3月東京工場：325kW  
23年7月甲山工場：452kW
- 今後の予定  
25年：本社工場：525kW  
  
25年以降1,215t/年のCO<sub>2</sub>排出量の削減見込み



甲山工場

太陽光発電による  
CO<sub>2</sub>年間削減量の見通し (t-CO<sub>2</sub>)



## トピックス ⑧

- 福山テクニカルセンター開所

## 概要

- サンテックカンパニー技術部を広島県福山市の複合施設「iti SETOUCHI (イチ セトウチ)」(福山市西町1-1-1)内に新たに開所した「福山テクニカルセンター」へ移転
- 多様な企業が集まり、アクセスも良好な福山市中心部に拠点を構えることで、異業種交流を通じた新製品の開発、並びに、採用強化を図る





- 本資料に記載する業績予想などの将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
- このため、様々な要因の変化により、実際の業績とは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。
- 本資料の一切の権利は当社に属しており、方法・目的を問わず無断の複製・転載をお断りします。

問合せ先 総務部総務課 IR担当

電話番号 0847(40)0501

企業サイト <https://www.kiw.co.jp/>